

## IMI 臨床現場における近視管理に対する姿勢と戦略の世界的傾向

### 2022 アップデート

#### Prof. James Wolffsohn

PhD

IMI 委員会議長兼主任科学者  
アストン大学（英国）

行動的、光学的、薬理的な方法を含むさまざまな近視管理のアプローチが研究され、臨床実践に取り入れられています。しかし、若年の前近視および近視患者の管理には現在標準化された方法がなく、前述の方法へのアクセスは場所によって異なります。眼科医の間で近視制御に対する関心と自己報告された取り組みのレベルが高いにもかかわらず、2015年と2019年に行われた世界的な調査結果では、大多数が若年近視患者に単焦点の屈折矯正を処方していることが明らかになりました。本稿は、2022年に実施された調査に基づき、世界各地の臨床現場における近視に対する姿勢と管理戦略の最新情報を提供します。

この調査には、3,000人以上の臨床医から回答があり、2019年に行われた前回の報告の約3倍の数となりました。今回初めて、アフリカからの回答数が大陸全体の分析に十分な数に達し、6大陸すべてを網羅する結果となりました。2015年、2019年、2022年のすべての調査で、大多数の回答者は検眼士および眼科医でした。小児の近視の増加に対する関心の自己報告レベルは6大陸すべてで依然として高く、アジアの臨床医が最も高い関心を示しました。近視制御の臨床活動の認識レベルもアジアで最も高かったですが、大陸内での大きな差異が見られました。2019年と比較して、全大陸で報告された近視制御の臨床活動が増加しました。6大陸のすべての臨床医が、組み合わせ療法が近視制御に最も効果的な方法であると認識していましたが、実際には最も処方されていない技術の一つであり、アフリカで2%、アジアで5%の範囲でした。近視制御の臨床活動のレベルが上がっているにもかかわらず、単焦点眼鏡（32%）およびコンタクトレンズ（7.5%）が依然として最も一般的な矯正方法であり（ただし、この数値は徐々に減少しています）、現在は近視コントロール用眼鏡（15.2%）および近視コントロール用ソフトコンタクトレンズ（8.7%）、オルソケラトロジー（11.6%）、およびアトロピン療法（7.2%）が処方されています。

## 謝辞

本 IMI ペーパーは、IMI プログラム・ディレクターの Dr Nina Tahhan PhD, MPH, BOptom によって要約されました。IMI タスクフォースメンバーの全リストおよび IMI 白書全文は [myopiainstitute.org](http://myopiainstitute.org) でご覧いただけます。出版および翻訳費用は、BHVI、ZEISS、EssilorLuxottica、CooperVision、Alcon、HOYA、Théa、および Oculus からの寄付によって支援されました。

翻訳者：後藤聡(MD, PhD, MPH, 大阪大学)

## 参考文献

James S. Wolffsohn, Yasmin Whayeb, Nicola S. Logan, Rebecca Weng, the International Myopia Institute Ambassador Group\*; IMI—Global Trends in Myopia Management Attitudes and Strategies in Clinical Practice—2022 Update. *Invest. Ophthalmol. Vis. Sci.* 2023;64(6):6. doi: <https://doi.org/10.1167/iovs.64.6.6>.

## 問合せ

Brien Holden Vision Institute Ltd  
Level 4, North Wing, Rupert Myers Building, Gate 14 Barker Street,  
University of New South Wales, UNSW NSW 2052  
[imi@bhvi.org](mailto:imi@bhvi.org)